

令和6年度 廿日市市立地御前小学校 学校評価自己評価表 (最終報告)

学校教育目標	『主体的に学び、他と協働しながら解決していく児童の育成』 「自分で考えよう」「自分で選ぼう」「仲間と進めよう」
目指す児童像	○自分で考え行動し、仲間とともに高まる子
目指す学校像	○地域とともにに歩み、感謝する心が育つ学校
目指す教職員像	○協働して、誠実に職責を果たす教職員

評価
S:目標を大きく上回った(目標値+5%以上) A:目標達成(目標値~+4%)
B:ほぼ達成(目標値±3%) C:もう少し(-4%~9%) D:できていない(-10%以下)

評価計画

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	担当	結果	評価(最終)	今後に向けて
主体的な学力の定着	主体的に課題に取り組み、自己調整しながら学習する児童の育成(市共通項目)	○主体的な学びの推進 ・児童自身が、自己決定・自己選択し、自分のペースで進める学習計画表の充実 ・自己調整につながる振り返り	・単元末テストにおいて、「知識及び技能」の正答率が85%以上の児童の割合	85%	教務・研究	「知識及び技能」の正答率が85%以上の児童の割合は77%で、1学期と比べて2ポイント上昇した。自由進度学習を中心とした単元づくりや授業構想の中で、児童のつまずきを予想した有効な指導方法を多く見出すことができた。目標としていた85%は達成できなかったが、単元の目標を達成するための個に応じた指導の工夫改善を行った成果が少しずつ表れている。	C	今年度は全学年自由進度学習を実施し、全教職員がこの学習方法を理解することができた。今後も自由進度学習の単元開発を通して、単元の目標を見据え、目標を達成するための学習環境を更に整備していく。 授業では児童の実態を丁寧に見取り、つまずきに対する手立てや個に応じた指導の充実を図る。そして自由進度学習の研究推進で大切にできた「児童理解」と「教材研究」を、今後は一斉授業や学校行事、特別活動でも生かし、児童があらゆる場で主体的に取り組めるように工夫する。
			・児童アンケートにおいて、「学習計画表などを使って自分で考え、進んで学習を進めたり振り返ったりしている」児童の割合	85%		「自分で考えて学習を進めたり振り返ったりする」と回答した児童は94%で、主体的に学び、自己調整できているととらえている児童がほとんどであった。 全学年で自由進度学習を実施し、学習環境を整えることで、児童が自己選択・自己決定・自己調整をしながら主体的に学習を進めることができた。	S	今後も自由進度学習を実施し、主体的に学び、自己調整できる児童の育成を目指す。児童の振り返りを大切にし、学び方を評価、価値付けすることで、児童が自らを理解し、自己調整しながら学びを進められるようにする。そして児童が授業を振り返りながら学びのつながりを感じ、よりよい学習方法を自ら選んだり、組み立てたりしながら進められるようにしていく。
豊かな心の育成	相互評価や自己の振り返りにより自己有用感を高める児童の育成	○自己有用感の向上 ・各教科、特別活動、総合的な学習の時間、掃除等における異学年交流の推進	・児童アンケート「ペア学年や異学年交流では、自分なりに人のために役立つことができた」で、92%児童が肯定的な評価であった。週2回のペア学年掃除で、上級生が率先して掃除をする姿があり、ペア学年との遠足やレクなどの交流では、上級生が企画をしたり、お互いがいいところを見つけたりするなど、「人のために役立つ」という実感をもたせたり、上級生と下級生にそれぞれに役割を自覚させたりする効果があった。	80%	生徒指導	児童アンケート「ペア学年や異学年交流では、自分なりに人のために役立つことができた」で、92%児童が肯定的な評価であった。週2回のペア学年掃除で、上級生が率先して掃除をする姿があり、ペア学年との遠足やレクなどの交流では、上級生が企画をしたり、お互いがいいところを見つけたりするなど、「人のために役立つ」という実感をもたせたり、上級生と下級生にそれぞれに役割を自覚させたりする効果があった。	S	「ペア学年」の活動は、他学年との連絡調整が必要なため活動内容が限られるが、予め年間計画に位置付け、児童に企画・運営する部分も決めて実行させるなど、主体的に工夫して動くことで人のために役立つことができたという実感をもたせる。 今後も、学級や学年を中心とした「ペア学年」での活動を取り入れ、自己の振り返りや相互評価を継続し、自己有用感を更に高めていく。
健やかな体の育成	各種運動の基礎となる走力の向上	○「走の運動遊び」を取り入れた授業改善 ・「走り方教室」の実施 ・職員研修の実施	・年度当初に計測した50m走の記録を上回る児童の割合	80%	保健体育	2学期の50m走で、年度当初の記録を上回った児童は82.2%で、目標をほぼ達成した。 11月の全児童を対象にした走り方教室では、走力向上のために大切な「腕ふりと目線を意識した走り」「スタートの動き」を学んだ。一人一人の記録カードは、前回を上回る記録を出そうという意欲付けにつながったと考える。 走力の向上に向けて、夏季休業中の職員研修、走り方教室で教職員も一緒に学んだことで、指導する側の意識が変容し、教職員の指導力も少しずつ向上している。	B	普段から、走力向上につながる動きを取り入れた授業を体育科で実施する。そのための授業案を提示したものを各学年で実施し、検証する。 来年度も、全児童を対象にした走り方教室を継続し、走るフォームやコツについて想起させ、自分の走り方に活かせるようにする。 記録カードを残していくしながら、前の自分より伸びた今の自分を実感させる。

